



12月1日は世界エイズデー



1988年にWHO（世界保健機関）が12月1日を“World AIDS Day”（世界エイズデー）と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱しました。現在では、治療法の進歩により、HIV陽性者は感染を早期に把握し、治療を早期開始・継続をすることによりエイズの発症を防ぐことができ、HIVに感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。エイズまん延防止及び患者や感染者に対する差別・偏見の解消等を図るため、エイズに関する正しい知識等を習得しましょう。

HIV／エイズとは

エイズは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによっておこる病気です。HIV感染＝エイズではありません。HIV検査を受けることではじめて感染の有無を確認することができるのです。

HIV感染



自覚症状がない
時期が数年続く



免疫力が低下し、
様々な病気を発症



エイズと診断

感染経路

これだけは知っておこう

HIVの主な感染経路は3つです。

1. 性行為による感染

性行為による感染は、最も多い感染経路です。

HIVは感染者の血液・精液・膣分泌液から、その性行為の相手の性器や肛門、口などの粘膜や傷口を通して感染します。

2. 血液を介しての感染

HIVが存在する血液の輸血や、依存性薬物の“回し打ち”による注射器具の共用などによって感染します。日本では、現在献血された血液は、厳重な検査により最高水準の安全が確保されていますが、きわめてまれとはいえ、感染の可能性を完全には排除できません。

3. 母親から赤ちゃんへの母子感染

母親がHIVに感染している場合、妊娠中や出産時に赤ちゃんに感染することがあります。

日本では、お母さんがHIV感染症の治療薬を飲むことや母乳を与えないことで、赤ちゃんへの感染を1%以下に抑えることができます。



検査について

血液検査でHIVに対する抗体が出来ているかどうかを調べます。

保健所では、住所や名前を知らせず、無料で検査を受けることができます

●感染の有無をはっきり確認したいとき

感染の可能性のある機会があって、3か月以上たってから検査を受けて「陰性」と出た場合は、感染していないと考えられます。

●感染のことがどうしても心配になったとき

3か月以内であっても、検査・相談を受けることで、ひとつの目安をえることができます。

ただし、もし陰性と出てもその結果を最終的に確認するためには、感染の機会から3か月以上たってからの再受検が必要となります。